



vol.10



WEB



Facebook

発行：佐賀県農産課

<http://www.pref.saga.lg.jp/list00069.html>



TMファーム  
田中貴晃さん

## 細やかに、丁寧に。堅実な経営を目指す 始めたからにはやめない。強さが支えるイチゴ生産



### 就農9年、平均を大きく上回る収穫量に

雪まじりの寒風が吹きすさぶ中、ビニールハウスに入るとそこは春。ほんのり色づいたイチゴ、可憐な白い花、小さなミツバチも飛び交っています。ここで佐賀県が誇る果物の一つ、ブランドイチゴの「さかののか」を手掛けるのが田中貴晃さん。小城市芦刈町で就農して9年目の若手生産者です。

「今年は収穫がちょっと遅いんです。まだこんなに花が咲いとるでしょう。これからまだまだ収穫作業が続きます」。イチゴは、11月末から5月まで収穫で大忙し。田中さんは多段式高設設備を導入しており、ずらりと並んだイチゴ棚はすべて2段。つまり、それだけ収穫量が多いのです。「やっぱり、経営を成り立たせるのが一番。それには収量を上げんといかんから」。就農以来、地道な努力を重ね、昨年の収穫量は10a当たり5.2t。佐賀県のイチゴ収穫量の平均10a当たり4.1tを大きく上回りました。「イチゴを始めてから最高の収量。そろもう、去年はこれ以上無理と思うほど作業が大変だったです」と、苦笑いしながら話してくれました。

裏面へ続く・・・

## TOPICS



### 佐賀県農業大学校オープンキャンパス開催！

平成30年3月11日(日)10時から佐賀市川副町にある佐賀県農業大学校(佐賀市川副町南里1088)で、オープンキャンパスが開催されます。学校紹介や専攻実習体験のほか、卒業生との交流会も開催されます。事前に申し込みが必要です。

問い合わせ先、申し込み先：佐賀県農業大学校養成部 0952-45-2144



## 「観察」を大事に、イチゴと濃密に向き合う

今では芦刈のイチゴ生産をけん引する一人ですが、9年の道のりは、順風満帆とは言えませんでした。実家は農家ながら農業の先輩である父親を亡くしてからの就農。しかも、イチゴはゼロからのスタートでした。「もうなーんもわからん。まったくの手探り。失敗も多かったです」。育苗期に苗が病気に感染し、植えたイチゴの多くが枯れ、収量が激減したこともありました。

苦労も淡々と話す田中さんですが、イチゴとの向き合い方は濃密。「大事にしているのは観察です。新葉は写真に撮って、変化をしっかり見ます。育ち具合とか、病気が出てないとか」。また、芦刈いちご炭酸ガス研究会にも所属。ハウス内のCO<sub>2</sub>の濃度を調整してイチゴの光合成を促進することで成育を良くし、収穫量を増やす技術を研究しています。「光合成が活発になれば肥料も増やさないとはいけない。でも増やし過ぎてはだめなんです」。イチゴはバランスが難しいデリケートな作物です。だからこそ、日々の丁寧な観察で判断し、調整を重ねることで、収穫量を増やしてきたのです。

そんな田中さんに苦労をどう乗り越えたのか聞くと「まあ、始めたからにはやめられんし、ヨメも支えてくれたけんですね」。たった一言ながら、この9年間を支えた、田中さんの実直さと農業への情熱がうかがえました。

もっと詳しいお話はwebサイトをチェック！



CO<sub>2</sub>濃度測定器  
(ハウス内のCO<sub>2</sub>の濃度を測る機械)



## アンケートにお答えください！

「SAGA アグリ之星」は、サイトとフリーペーパーで、次世代の佐賀農業を担う人材をご紹介します。今回のインタビューに関する感想や、佐賀の農業への思い、また、フリーペーパーやサイトに掲載する佐賀の農業情報や、農業に従事している人について、どんなことを知りたいかなどのご要望をお寄せください。

アンケートは、「SAGA アグリ之星」サイトで、スマートフォンからもお答えいただけます。右側のQRコードからアクセスしてください！



SAGAアグリ之星  
アンケートページ